

中学校区で一体となった生活習慣づくり

★ 自分で計画を立てて自分を律する力を育む ★

弥栄中校区では、以前から小中学校の合同職員会や合同運動会を行っており、普段から連携を深めています。昨年度まで、小中学校教員がバランスよく所属する「授業づくり部」「生活・集団づくり部」「事務部」「用務部」の4つの部で活動を行ってきましたが、授業づくり部の振り返りにおいて、家庭学習時間の少なさと自主学習のあり方が課題に挙がっていました。しかし、家庭学習に対する取組を担当するのが「授業づくり部」なのか「生活・集団づくり部」なのか明確ではありませんでした。そこで、本年度は「生活習慣づくり部」を新設し、課題解決に向けた協議を行いました。

そして、目指すイメージを自分の生活を自分でつくとし、自分で計画を立て自分を律する力を育むことをねらうことにしました。中学校では定期テスト前に10日程度の学習計画表を作成し、実践と振り返りを行い、教員がコメントを入れました。また、デリーライフ（連絡帳）には翌日の授業内容やその日の家庭学習の時間や内容を記入し、担任はアドバイスなどのコメントを返しました。小学校高学年では、中学校と同様に1週間分のスケジュール表を作成し、家庭からのコメントをいただいた後、担任がコメントを返しました。「家庭学習の手引き」については、「家勉」として取り組んでほしい学習の例を低・中・高学年ごとにリストアップして児童に示し、自分で選択をして家庭学習に取り組むことができるようにしました。

☆ 成果と今後の取組

学習を決まった時間にする習慣ができつつあります。小学校の児童評価では「目標に向かって進んで行動している」が前期に比べ10%増えており、目標を立てて実現に向かって努力する意識も高まってきました。今後も継続的でより効果的な取組を探っていきます。

★ 自分で自分の時間を管理するタイムマネジメント能力の向上 ★

三隅中校区では、児童生徒のメディア接触時間の低減を目指した「メディアコントロール」的な内容から、軸足を自分で自分の時間を管理する能力を育む「タイムマネジメント」的な内容に移行しつつあります。児童生徒のタイムマネジメント能力が向上することで結果的にメディア接触時間が低減し、ひいては学力の向上に寄与することを期待してのことです。令和5年度と6年度に実施した校区内児童生徒アンケート数値を比較してみると、取組に対する効果はまだ限定的ではあります。しかし、全国学力・学習状況調査におけるデータを加味すると、「1日2時間以上テレビゲームをする者」は減少傾向にあり、「1日1時間以上勉強をする者」は増加傾向となっています。数値の細かな上下に一喜一憂せず、根気強く取組を続ける必要があると考えています。

今後も成果と課題から具体的な方策を定めつつ、児童生徒の「タイムマネジメント」能力の育成を図っていきます。

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

★ 浜田商業高校生徒との神楽体験学習 ★

三隅中校区では、三隅地域にある6つのまちづくりセンターと緊密に連携しながら、豊富にある三隅地域の教育資源（ひと・もの・こと）を効果的に学校教育の中に取り込む工夫を続けています。

今年度は「神楽体験」学習について紹介します。浜田が誇る伝統芸能である石見神楽は、ここ三隅地域でも盛んです。昨年度は岡見まちづくりセンター及び社中にお世話になり、岡見小・三隅小児童が合同で神楽体験学習に臨みました。勇壮な舞を見た後、自分たちも面をかぶったり大蛇の衣装を身にまったりして、神楽の世界に浸ることができました。今年度も同様の合同活動を実施しようとしたのですが、岡見小学校の複式学級化や社中のご都合等々の理由により、浜田商業生を招いての三隅小学校単独での学習となりました。

☆ 今後の取組

三隅中校区3校のふるさと学習をより効果的に実施するため、互いの学習計画をよく知るとともに、可能な範囲で「相互乗り入れ」「出前授業」的な学習を計画することもできるように検討をしていきたいと考えています。



〈浜田商業生との神楽体験学習〉

令和6年度を振り返って

表紙にある4つの視点（①各中学校区で一体となった生活習慣づくり、②学ぶ意欲を高め夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成）について、小中連携教育による実践や浜田市教育委員会施策事業、各学校での取組を通して達成を目指しています。目標指標に沿って、今年度の状況を振り返ってみます。下線が今年度値、◎は目標値を、○はスタート値を上回っていることを表しています。目標指標については、「しまねの学力育成推進プラン」との整合性を図った項目としています。併せて、評価対象学年を小学校5年生及び中学校2年生とし、島根県学力調査結果（12月実施）の数値としています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり

「普段（月～金曜日）、1日あたり2時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする子どもの割合」の減少。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：51.3%	中学校2年：43.8%
令和6年度値	◎小学校5年：36.4%	中学校2年：49.9%
目標値（令和7年度）	小学校5年：50.0%	中学校2年：42.0%

「普段（月～金曜日）、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：63.5%	中学校2年：51.4%
令和6年度値	小学校5年：54.9%	中学校2年：30.1%
目標値（令和7年度）	小学校5年：65.0%	中学校2年：65.0%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合」の増加。（新項目）

スタート値（令和2年度）	小学校5年：65.4%	中学校2年：62.5%
令和6年度値	○小学校5年：67.8%	中学校2年：60.0%
目標値（令和7年度）	小学校5年：70.0%	中学校2年：70.0%

☆ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合」の増加を重視しています。小学校ではスタート値よりも向上しています。これに連動してテレビゲーム時間についても改善し、目標（目標値50%以下）を達成しています。

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

「将来の夢や目標をもっていると思う子どもの割合」の増加。（項目変更）

スタート値（令和2年度）	小学校5年：79.3%	中学校2年：70.6%
令和6年度値	小学校5年：77.6%	中学校2年：64.0%
目標値（令和7年度）	小学校5年：89.3%	中学校2年：80.6%

「自分には良いところがあると思う子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：62.9%	中学校2年：60.9%
令和6年度値	○小学校5年：68.6%	○中学校2年：70.1%
目標値（令和7年度）	小学校5年：80.0%	中学校2年：80.0%

☆ 「自分には良いところがあると思う子どもの割合」については、小中学校ともスタート値を上回りました。夢や目標をもったり自分には良いところがあると思ったりする子を増やしていくために、地域や家庭と共に子どもたちと語り合ったり大人が取り組んでいる姿を見せたりしながら関わって行くことを大切にしたいと考えています。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

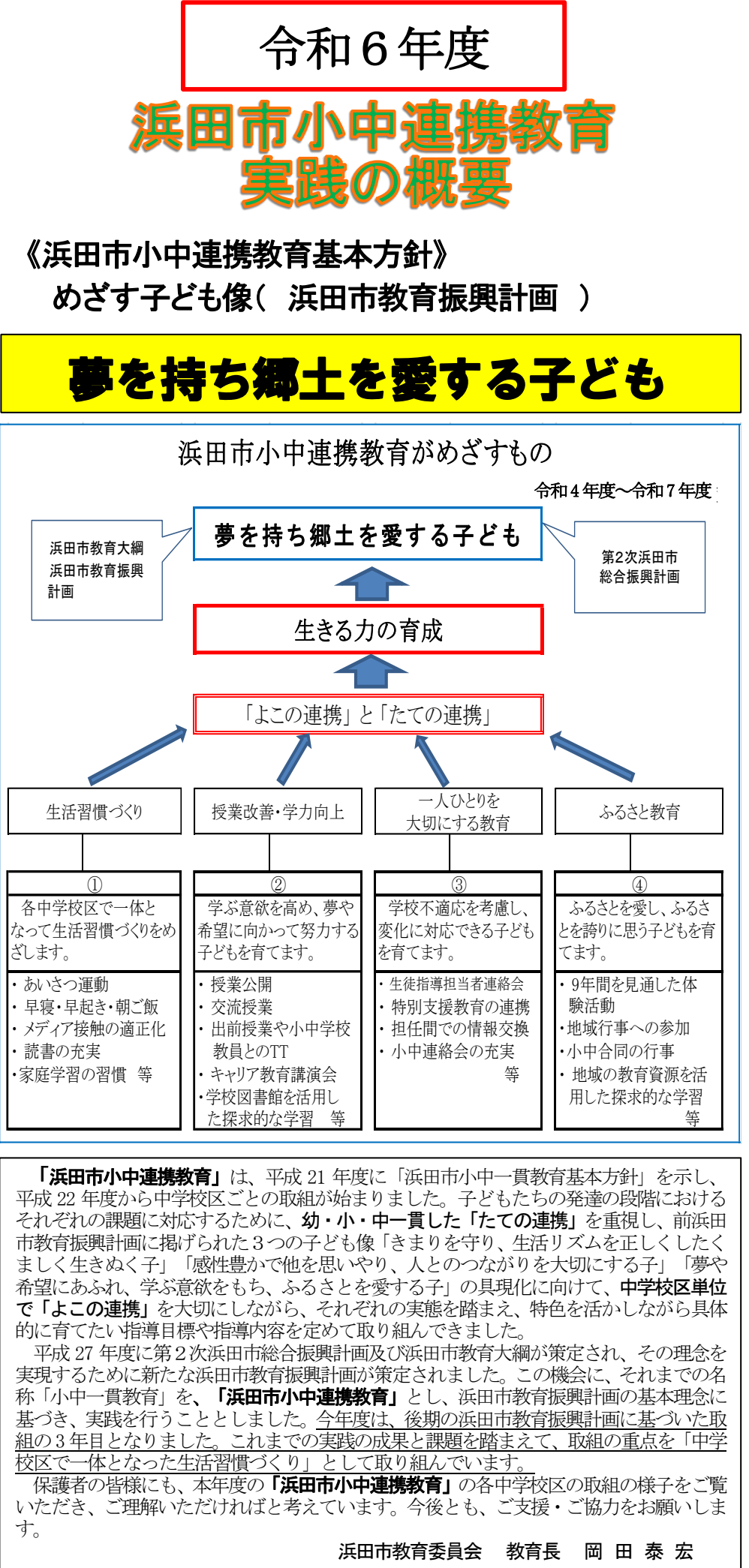
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：45.7%	中学校2年：32.7%
令和6年度値	○小学校5年：48.5%	○中学校2年：35.2%
目標値（令和7年度）	小学校5年：55.7%	中学校2年：42.7%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：57.5%	中学校2年：66.7%
令和6年度値	○小学校5年：66.6%	中学校2年：59.2%
目標値（令和7年度）	小学校5年：67.5%	中学校2年：76.7%

☆ ふるさと教育では、総合的な学習の時間等で身近な題材を課題としながら学習を進めています。地域を題材にした学習では、自分にできることについて考え、学習したことを発信することにも取り組んでいます。引き続き、このような学習を大切にし、地域について考えることのできる子どもを育てていきたいと考えています。



学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

☆ 小中ともに「要約学習」により読解力や情報をとらえる力を育成 ☆

二中校区では、児童生徒の学力向上のために「要約学習（文章の図式化）」に取り組みました。原井小は読解力を伸ばす土台づくりとして、二中は多様な情報を効率的に整理しながらインプットする力を伸ばすために取り組んでいます。

6月には、要約学習の提唱者である鳥田勝信先生を招いて児童生徒を対象とした授業と職員研修を行っていただきました。小学校は鳥田先生の指導を受けるのは2年目となり、今年度より毎週各学級で要約学習に取り組むとともに、身に付けた力を活用できる内容においては教科等の授業に取り入れています。中学校では初めての取組でしたが、1年生は小学校での体験が生きており、とても活発に活動することができました。2学期からは朝礼までの時間を活用して、隔週で要約学習に取り組みました。課題が配布されると教室が一瞬で静まり返り、生徒は各々文章の図式化に取り組みます。その後、作成をした図式を基に読み取ったことを生き生きとプレゼンテーションする姿が見られています。

このように、身に付けた図式化の手法が児童生徒のものとなるように、授業やその他の活動において繰り返し取り組んでいます。この図式化の評価として「図式名人」の認定も行っています。図式名人の割合は以下のような状況となっています。（単位は％）

		小3年	小4年	小5年	小6年		中1年	中2年	中3年
1学期	小学校	36	47	55	66	中学校	65	60	79
3学期		23	58	64	56		年度末までに認定予定		

要約学習のよいところは、時事問題など社会で話題の課題が教材であることです。児童生徒が楽しみながら新しい話題に触れ、自分の知識を増やしていくことは、要約学習での取組における副次的な効果でした。☆ 今後に向けて

来年度も、小学校で育んだ力を中学校でより伸ばしていけるように引き続き要約学習に取り組み児童生徒の読解力・情報をとらえる力を伸ばす取組を進めていきます。



＜鳥田先生による授業＞



＜図式化を取り入れた国語の授業＞



＜教材文を図式化＞

☆ 共通の視点を設定した授業改善の取組 ☆

三中校区では、令和7年度に開催される島根県算数・数学教育研究大会（浜田大会）において三中、周布小、長浜小が授業を公開することになっています。このことに向け、各学校の公開授業に相互に参加することを含め、校内研修や研修交流を活発に行い、授業づくりを中心に児童生徒の学力向上及び教員の指導力向上を目指しました。

島根県算数・数学研究会テーマは「確かな学力を育むための数学的な活動を活かした授業づくり」であり、三中校区の学校ではこのテーマにつながる研究主題を設定して取組を進めています。具体的な取組としては、共通の3つの視点「導入の工夫（隠す）」「ほめる」「たくさんやる」を教科や児童生徒の発達の段階に応じて工夫し、研究を進めています。

また、研究会や研修会などの参加を校内研修計画に位置付け、年間を通じた研修の充実を図りました。島根県算数・数学会主催の夏期研修会や浜田市教育委員会主催の授業づくり研修会に中学校教員は数学科担当者全員、小学校は半数以上が参加をして研鑽を重ねたことは、その一例でした。

☆ 成果と今後の取組

授業改善の3つの視点を共通理解していることで、研究協議の際にも校種を超えて意見交流が活発に行われ、その後の授業改善に生かしやすくなりました。また、教科の系統性や指導の一貫性を意識した実践を行うこともできました。以下は、授業改善に関する教員対象のアンケート結果です。

「授業改善の意欲」 高まった 58% 少し高まった 39%
「授業改善の進捗」 進んだ 34% 少し進んだ 63%
「児童生徒等の意欲や態度の変化」 あった 30% 少しあった 68%

継続的に研修を進めていることもあり、授業改善に対する教員の意欲は高まっています。一方で改善に向けた取組や児童生徒の授業に向かう姿勢は着実に進んでいるものの、改善・向上の余地もあると思っています。より確かな学力を児童生徒が獲得するために、一層の研鑽を積み重ねていきます。



＜共通の視点による公開授業＞

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

☆ 中学校教員が小学校で授業をする「交流授業」の実施 ☆

金城中校区では、中学校の教員が小学校で授業をする「交流授業」を下記のとおりに実施しました。

- 10月10日 波佐小学校における全校音楽（合唱・合奏指導）
- 10月11日 雲城小学校における3年生音楽（合唱指導）
- 10月17日 波佐小学校における全校音楽（合唱・合奏指導）
- 11月28日 雲城小学校における6年生英語
- 12月18日 今福小学校における5・6年生英語

歌唱指導を受けた児童は「先生の声がきれいでびっくりした」「教えてもらったように歌詞の意味を考えて歌いたい」等の感想をもち、豊かに表現する意欲を高めました。また、英語の授業では、児童が自己紹介やクイズに意欲的に取り組み、楽しみながら英語に親しむ姿が見られました。

さらに、中学校進学を控えて中学校の学習内容に不安を抱く児童もいる中で、授業者から中学校の様子を教わったことで安心感を覚え、学習意欲を高めた者もありました。

中学校からは授業者だけでなく管理職もともに参加しました。授業を参観するだけでなく実際に授業をすることで、児童の様子をよく理解できることに加え、学級の様子、学校の様子を把握することもできました。普段なかなか情報交換をすることができない中学校の授業者と小学校の担任との間で意見交換や教科指導についての話をするることにより、共通して指導していきたいことについて確認をすることもできました。

☆ 成果と今後の取組

中学校教員による専門的な教科指導は、小学校教員の授業力向上に大きく役立つものでした。また、児童の様子や学習状況等の情報共有ができることや、児童の中学校進学への不安を軽減することができる等、交流授業の意義は極めて大きいと考えています。中学校にとっても、授業改善や学力向上面だけではなく、中1ギャップ解消に向けて大きな効果があると考えています。来年度は教科を増やし、継続して取り組む予定にしています。



＜英語の授業＞



＜音楽の授業＞

学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

☆ 小中交流会の実施 ☆

一中校区では、学校不適應・中1ギャップ対応として校区の小学校6年生を対象とした、小学生と中学生が交流する活動を行いました。

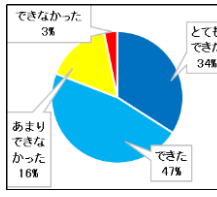
当日は、校区の3つの小学校の児童と中学校の生徒で20人程度の小グループを作り活動しました。活動内容については、中学校2年生がゲーム形式の活動を考え、自然に対話が生まれる雰囲気の中で交流が進みました。緊張気味の小学生も徐々に発言が増えたり、中学生も上手にリードしたりする様子が見られました。

その後、部活動を体験し、興味のある部活動に積極的に参加しようとする小学生の姿が見られました。中学生も楽しく一緒に活動できるように丁寧に教えながら関わっていました。

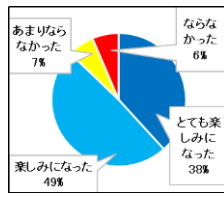
☆ 成果

事後アンケートでは小中学生ともに肯定的な評価が多く、有意義な活動となりました。小学生にとっては中学校進学に向けて意欲が高まる機会となり、中学生にとっても上級生としての自覚が芽生える機会となりました。この交流活動を通して、安心して中学校生活がスタートできることを期待しています。

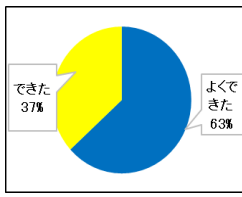
【小学生アンケート結果】



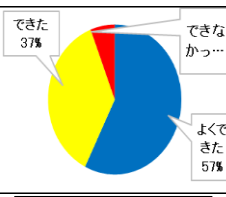
協力的、積極的に活動



中学生になることが楽しかった



楽しんでもらえた



下級生をリードするイメージができた



＜小学校6年生と中学校2年生の交流活動＞

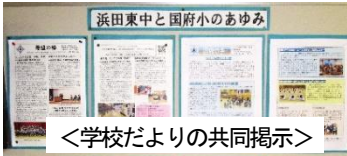
学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

☆ 様々な見学や体験活動を通して中学校生活への豊かな見通しをもつ ☆

浜田東中校区では、小学校6年生が中学校での活動や行事の体験・見学を通して中学校生活への豊かな見通しを育てることに取り組んできました。

① 「学校だより」の共同掲示による情報の共有

毎月発行する「学校だより」を国府小、浜田東中、国府まちづくりセンターのそれぞれの掲示板上にコーナーを設けて掲示しています。



＜学校だよりの共同掲示＞

② 中学校行事を見学する方法の工夫

合唱コンクールの様子をリモート配信し、国府小の児童が見学をしました。小学校も浜田市連合音楽祭に向けて合唱に取り組んでいる時期であり、児童も関心をもって中学校の合唱を見ることができました。

③ オープンスクールの見学や体験の工夫

内容は例年と大きくは変わりませんが、前年までの反省を基に小中学校で相談をしながら、児童生徒が活動への見通しをもつことができるように事前の指導も行いました。

○ 授業見学の工夫（少人数グループ編成、教科の選定）

- 10人程度の4つの小グループ編成で効率よく巡回をしました。
- 前年度の反省や要望を踏まえて見学する教科を設定しました。

○ 部活動体験（事前の調整、1・2年生による誘導や支援）

- 事前に参加人数を確認し、活動内容を考えました。
- 中学校1・2年生に事前指導を行い、練習場所への誘導や練習の支援を行いました。中学生にとっても上級生としての自覚を高める機会となりました。

○ 事後の振り返り

参加した小学生の感想をまとめ、受け止めて把握するとともに、改善する内容等について検討をしました。主な感想は以下のとおりです。

- 英語が難しそうでした。中学校に入ったら授業やテストをがんばりたいです。
- 部活動体験では1・2年生が優しく教えてくれて、うれしかったです。
- 全体的に楽しそうな雰囲気、これから行くのがとても楽しみです。

☆ 成果と今後の課題

オープンスクール後の感想では、参加した6年生の9割近くが「楽しそう」「面白かった」「教えてもらえてうれしかった」「がんばりたい」など、肯定的な表現をしていました。しかし、不安を抱えている児童も少なくないと思われるので、2月に予定している新入生説明会などの機会を活用して、より明るい見通しがもてるように配慮していきます。また、小中学校教員の交流や小学生の授業体験などについても検討していきたいと考えています。



＜部活動体験＞

☆ 小学校6年生の中学校での年間を通した体験学習・交流会 ☆

旭中校区では、今年度も小学校6年生が中学校での体験学習をしました。

1学期は、中学校1年生から3年生までの授業の様子を見学し、授業の雰囲気や授業に取り組む姿勢を直接学びました。その後、中学校生活に向けて大切にしたいことの説明を聞きました。

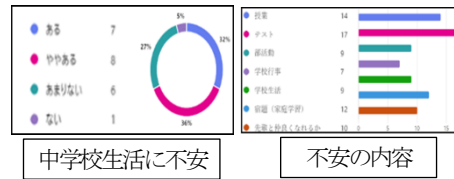
2学期には、中学校の社会科の授業体験と中学校1年生との交流会を行いました。グループでの質問タイムでは、全体ではなかなか聞くことができない授業の話や先生の話、部活動の話などをたくさん聞くことができ、児童の中にある不安が少し和らぐとともに中学校生活へのイメージが1学期よりもさらに具体化できたようでした。交流後も中学校1年生から手紙をもらい、中学生に対する親しみをもつことにつながりました。

3学期は、入学説明会の際に小学校6年生と中学校1・2年生の交流会を実施しました。

☆ 成果

アンケート記述からは、児童の中学校に対する不安感は多少あるものの、希望と期待を抱いて入学したいと考える者が多くいるということが分かりました。特に勉強やテストの内容等、学習面での不安はありますが、勉強を頑張りたい、テストで高得点を取りたいとの意欲も感じることができました。また、学校生活や学校行事を楽しみにしており、4月からの見通しがある程度もつこともできています。年間を通した交流により中学校生活への不安を解消するという目的は達成できていると考えます。

【小学6年生へのアンケート（5月）】



【小学6年生へのアンケート（10月）】

